The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ハワイにおける日系人の教育観 : アイデンティティ諸相に関する調査から
Author(s)	横山, 香奈
Citation	大阪大学, 2016, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/59635
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（横山　香奈）	
論文題名	ハワイにおける日系人の教育観 ―アイデンティティ諸相に関する調査から―

論文内容の要旨

明治維新以降、急激な人口増加、農村部の困窮した経済状況、封建制の終焉によってもたらされた人口の流動化、移民送金による外貨獲得の必要性等の諸要因から、より豊かな生活を求め海外に移住した日本人が多くいた。ハワイもその行き先のひとつであるが、多くの日本人が移住したため、異国の地でありながらも現地で大きなコミュニティを形成した。

移住初期の日本人移民は、小学校以外、教育を受けられる機会などはほとんどなく、耕地労働を中心に生計を立てていた一世のその子どもたちもまた、教育を受けるためには大変な苦労をしなければならなかった（Saiki, 1995）。その後定住していった日系人の中には次第に大学へ進学する者が現れだし、高等教育を足掛かりに社会参入を始めた。やがてハワイの教育制度の意思決定に関わる職に就く女性も出現するようになり、支配的であった白人社会の中で徐々に自分たちの地位を向上させていった。そして、今現在では多くの日系人が高学歴で専門性の高いホワイトカラーの職種に就いており、政治や経済の分野でも強い影響力を保持し、現地社会において高いステータスを築くに至っている。

これまでの多くの日系人関連の先行研究で、日系一世が子どものより良い将来のために教育を重要視し、その教育を基盤に日系人は成功を収めたという事実が明らかにされている（Hazama & Komeiji, 1986; 野﨑, 2007; Saiki, 1995等）。また、野﨑（2007）によると、一世は当時ナショナリズムの強かった日本を祖国とし、明治・大正時代の道徳観・倫理観を持っており、異国で生活することや子どもたちの教育に懸命であったが、二世は白人社会で教育を受け、その社会に同化することが彼らの課題であった。そのために両親の祖国である日本と自らが生まれたアメリカという二つの国の間で、偏見との戦いやそこから生まれる精神的な葛藤を通じて得たアメリカ人としての誇りと自尊心があった。そして三世・四世世代は、日本の経済的発展により両親たちとは異なった目で日本を見るようになった。それはマジョリティに吸収されるマイノリティの同化という形ではなく、新たな社会「The Third World」を作り、自分たちの存在意義を示そうとするものだ。このように各世代が置かれている社会背景も変化してきているわけだが、日系一世の抱いていたかつての教育観は、今を生きる日系世代にも継承されているのだろうか。

本研究では、質問紙調査法を用いて、現在のハワイの日系社会を生きる幅広い年齢層の日系人の教育観を分析する。また、日系人が「教育」を基盤にハワイ社会において成功を収めたことは上述の通り複数の先行研究でも明らかになっているが、日系人が移住先ハワイで、何もないゼロの状態から高等教育を受ける機会を得るようになるまでの要因や過程について多角的に考証した文献は管見の限り見当たらない。そのため、本研究では、質問紙調査法で協力を得たハワイ出身日系人の中から日本で面談が可能であった者には半構造化面接も併せて行い、そこからの聞き取りを通して、日系人がハワイで高等教育を受ける機会を得るようになるまでの要因や過程を考察する。また、質問紙調査と半構造化面接で得られたデータや証言の整合性を検証し、データ補完ともするために三つのアーカイブを使用し、(1)「Discover Nikkei」より6名、(2)「Densho」より19名、(3) ハワイ大学マノア校（University of Hawai‘i at Mānoa）の「Center for Oral History」より8名、計33名のインタビューデータを分析に含めることとする。

【本研究のリサーチクエスチョン】

(1) 日系五世の時代に入った今、現在のハワイにおける日系人はどのような教育観を持っているのか。

(2) ハワイに移住した日系人は、移住先の何もないゼロの状態からどのようにして高等教育を受ける機会を得るようになったのか。

【本稿の構成】

まず、序論にあたる第1章では、本研究を遂行するにあたっての研究背景と目的を述べた。

第2章は、日系人研究の理論や文化的アイデンティティに関する先行研究の纏めと、それを踏まえての本稿での研究

方法についてである。その中で、調査対象者とデータ収集方法、質問紙調査票における質問項目について述べた。質問紙調査は、現在のハワイにおける日系人の教育観を探るため、スノーボール・サンプリング法により抽出したハワイ出身の日系人24人に実施した。そして、日系人の教育観に影響を与えている要因を幅広く検討し、教育観という形や数値としては捉えにくい概念を考察するにあたり、学歴や職業、自分の子どもに対する期待等の明示的な「教育に関する質問」に限定せず、以下のような様々な項目も加え、9つのセクションに分類して内容を構成した。まずセクション1では、「基本属性」を問う内容だ。セクション2は「職業と学歴」について、セクション3は「学生時代の成育環境と親からの影響」について、セクション4は「自分の子どもに対する期待」についてである。セクション5は「現在の社交関係」について、セクション6は「宗教」について、セクション7は「日本語と日本文化の継承」について、セクション8は「差別体験」についてである。そして最後のセクション9は、「アイデンティティ」についてである。また、日系人がハワイで高等教育を受ける機会を得るようになるまでの要因や過程を考察するため、質問紙調査法で協力を得たハワイ出身日系人の中から日本で面談が可能であった二人には半構造化面接も併せて行ったが、そこで依拠したオーラルヒストリーの理論や修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの分析手法についても本章で述べた。

第3章では、ハワイにおける日系社会のこれまでの歩みを捉えるため、日系人がハワイへ移民した歴史と経緯を述べ、さらに、ハワイにおける本土出身（本稿では、「本土」を「北海道、本州、四国、九州本島7県」と位置付ける）の日系人と沖縄出身の日系人との社会階層について、ハワイで行われている文化行事のひとつである「Cherry Blossom Queen Contest」を事例に検証した。また、ハワイの日系社会の様相をより明確に理解するための背景知識として、第100歩兵大隊・第442歩兵連隊、写真花嫁、日系人の宗教、日本語学校、日本語新聞についても述べた。

第4章では、ハワイにおける近年の日系社会の諸相を考察するため、まず日系人人口の特徴と経年変化を明らかにし、「教育達成度」、「社会進出度」、「経済的達成度」の三つの観点から日系社会を分析した。ここで依拠したのは、アメリカ国勢調査(United States Census)の統計データであり、アメリカ国勢調査は、アメリカ国勢調査局(U.S. Census Bureau）が10年毎に実施している包括的な調査で、今日、同調査は、アメリカの社会状況とその変化を知る上で最大規模かつ信頼度の高いデータソースの一つとなっている。まず「教育達成度」を捉えるため、指標のひとつとして「学歴」に関する国勢調査データを利用し、ハワイにおける日系とそれ以外の主要エスニックグループとの比較考察をした。「社会進出度」については、「従事している職業」や「産業分布」、「従業形態」のデータに依拠し、「経済的達成度」については「収入」や「貧困層の割合」を指標として扱った。これら、「教育達成度」、「社会進出度」、「経済的達成度」の三つの観点から、国勢調査データを基に、ハワイにおける現在の日系社会の諸相を明らかにした。

第5章では、アーカイブデータ、質問紙調査データ、半構造化面接データについての概要を纏めた。

第6章では、アーカイブデータを併せての質問紙調査データと半構造化面接データの考察である。まず、本章前半では、アーカイブデータと質問紙調査データを基に、学歴や教育に対する意識、子どもの進路に関する親の影響、「教師」という職業、宗教を母体にした日本語学校、交際関係におけるエスニシティと親の影響、アイデンティティ等の観点より分析を行った。そして、現在のハワイにおける日系人はかつてほど自分の子どもの学歴や教育についての強い期待や願望を持ってはいないことを示し、その背景要因を検証した。そして女性教師や母親、つまり「女性」が日系人の教育観に影響力を与えてきたことについて論じ、さらに、日本語や日本文化に対する学習や習得の位置付けも変化してきていることについても言及した。

そして、本章後半では、アーカイブデータと半構造化面接データを基に、日系人が高等教育を受ける機会を獲得するようになった要因や過程について検証した。日系移民が異国の地で教育の機会を得て様々な専門分野で活躍するまでに成功した背景理由としては、日系移民が日本から持ち込んだ価値観や伝統、修身教育が強調され、単純に「日本人は勤勉だったからだ」、「日本人は我慢強かったからだ」と精神論に終始する事が多いが、調査対象者の語りを検証すると、日系人成功の背景には、次のような多角的要因が寄与していることが明らかとなった。それら要因は、(1) 意識の改革、(2) 第100歩兵大隊や第442連隊の活躍、(3) GIビル（復員兵援護法）による大学進学率の上昇、(4) 母親の教育熱、(5) 沖縄系を中心としたファミリービジネスの成功、(6) 不動産投資を基盤とした政界進出、である。

終章となる第7章では、本研究での分析を纏めるとともに、本研究を通じてのリサーチクエスチョンとは別の発見、つまり、今のハワイはエスニックグループ別の特色が薄くなってきており、どのエスニックグループも目立った特色のない同質のもの、言うなれば「ハワイアン」という位置付けになってきているということや異人種間結婚増加との関連性について論じた。

本研究では、ハワイにおける日系人という特定のエスニックグループに焦点を当てて、その教育観や高等教育を得るようになるまでの要因や過程の検証を試みたが、この一例を参考に、今後、移民の教育問題について検討したり、異なるエスニックグループの混合による利点や弊害を考察する機会を社会全体で増やしたりするなど、多方面に還元できるような研究をこれからの課題としたい。

様式７

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　横　山　香　奈　）			
論文審査担当者		（職）	氏　名
	主 査	教　授	ジェリー・ヨコタ
	副 査	教　授	日　野　信　行
	副 査	准教授	植　田　晃　次

論文審査の結果の要旨

横山香奈氏の学位申請論文「ハワイにおける日系人の教育観―アイデンティティ諸相に関する調査から―」は、現在のハワイの日系社会を生きる幅広い年齢層の日系人の教育観を分析したものである。多くの先行研究では、一世の教育観がハワイの社会における日系人の地位向上の一因として注目されてきたが、本論文では筆者は、各世代が置かれている社会背景の変化の中、今を生きる日系世代にその教育観がどう継承されているかという問題に焦点に当てて考察している。

本論文は全7章で構成されている。第一章では、本研究を遂行するにあたっての研究背景と目的を述べている。第2章では、日系人研究の理論や文化的アイデンティティに関する先行研究の纏めと、それを踏まえての本論文での研究方法について記し、調査対象者の説明とデータ収集方法、質問紙調査票における質問項目について述べている。第3章では、ハワイにおける日系社会のこれまでの歩みを捉えるため、日系人がハワイへ移民した歴史と経緯を述べ、さらに、ハワイにおける本土出身の日系人と沖縄出身の日系人との社会階層について、ハワイで行われている文化行事のひとつである「Cherry Blossom Queen Contest」を事例に検証している。また、ハワイの日系社会の様相をより明確に理解するための背景知識として、第100歩兵大隊・第442歩兵連隊、写真花嫁、日系人の宗教、日本語学校、日本語新聞についても述べている。第4章では、ハワイにおける近年の日系社会の諸相を考察するために、まず日系人人口の特徴と経年変化を明らかにし、「教育達成度」、「社会進出度」、「経済的達成度」の三つの観点から日系社会を分析している。第5章では、三種類のデータ（アーカイブ・データ、質問紙調査データ、半構造化面接データ）について概括している。第6章は、質問紙調査対象者とアーカイブ面接者対象者の比較、そして半構造化面接の対象者とアーカイブ面接対象者の属性と回答を分析し、その考察を述べている。最後の第7章では、分析と考察を纏めるとともに、多方面に還元できるような研究に発展させていく意思を述べて結んでいる。

横山氏の論文は、アーカイブ・データだけではなく、質問紙調査と半構造化面接も用い、幅広い情報源を対象に執筆されている。また、国勢調査等の統計を適切に抽出して、モデル・マイノリティ論やトランスナショナリズム等、多角的なアプローチで問題を位置づけた上、データ分析に最も適切と判断したグランデッド・セオリーの修正版を応用している。このようにインフォーマントの主体性を尊重するように分析法を構築した点から、独創性に富む論文であると評価しうる。さらに深い考察が望ましいと思われる箇所も少々見られるが、既成の尺度だけでは計り知れない、予想していなかった結果も導き出している。

以上により本論文は、博士（言語文化学）の学位論文として価値のあるものと認める。

なお、チェックツール“iThenticate”を使用し、剽窃、引用漏れ、二重投稿等のチェックを終えていることを申し添えます。